

日本都市社会学会ニュース

NO. 127 (2024. 4. 1)

事務局：〒512-8512 三重県四日市市萱生町 1200

四日市大学総合政策学部 三田泰雅研究室内

e-mail: usocio@urbansocio.sakura.ne.jp

TEL: 059-340-1405

(振替口座：00140-4-703976) URL: <https://urbansocio.sakura.ne.jp/>

日本都市社会学会第 42 回大会

歓迎の言葉 高木恒一（立教大学）

日本都市社会学会第 42 回大会は、2024 年 9 月 4 日(水)・5 日(木)の日程で、立教大学新座キャンパスで開催いたします。

立教大学のルーツである私塾立教学校が築地の外国人居留地に設立されたのは 1874 年で、2024 年には創立 150 周年を迎えます。創立当初は聖書と英学を教える小さな私塾でしたが、現在は 11 学部・15 研究科、学生・院生総数約 20,000 名を擁する大学となっています。本学会の会員は社会学部、コミュニティ福祉学部、観光学部に在籍していますが、非会員のなかにも都市社会学に関連する領域の研究者が少なからずいます。

本学は 2012 年の第 30 回大会をお迎えしました。学会の節目となったこの大会は池袋キャンパスで開催しましたが、今回は新座キャンパスに皆様をお迎えいたします。新座キャンパスはコミュニティ福祉学部、観光学部など 4 学部が設置されている、ゆったりとした雰囲気を持つキャンパスです。池袋キャンパスとは一味違う環境に触れていただけるのではないかと考えています。

今大会はコロナ禍が落ち着き、対面での大会開催が復活して 3 回目となります。ここ 2 回の大会は会員の皆様が一堂に集まることの意義と楽しさを改めて感じさせてくれました。今回もまた、感染症対策を行いつつ活発な報告・議論・交流ができる場をつくるべく準備を進めます。ご参加・ご協力をいただきますよう、何卒よろしく願いいたします。

(開催校担当理事 高木恒一)

大会企画（企画委員会報告）

企画委員会では、2024 年 1 月 20 日に第 3 回委員会を、2 月 27 日に第 4 回委員会をオンラインにて開催し、いずれも、次回の学会大会の企画について検討しました。

第 42 回大会では、例年どおり、シンポジウム、テーマ部会、ラウンドテーブルを実施します。まず、今回のシンポジウムのテーマは、「都市社会学の境界を『不可視』から再審する」です。これまで都市社会学において看過されてきた、「ジェンダークィア」や「モノ／自然」をめぐる議論を展開することにより、「都市とは何か」について問い直すという試みです。昨年行われた第 41 回大会のテーマ部会では、「インターセクショナルリティから都市をとらえなおす」をテーマに議論が展開されましたが、そこで得た知見を土台として、今回のシンポジウムのテーマが設定されました。

また、テーマ部会では、「都市社会学とフードスタディーズのクロスロード」と題して、「食」に光を当てます。近年、「食」に関わる研究への関心が高まっていることに鑑みて、この学会でも取り上げることになりました。ただし、「食」をめぐる現象は、これまでも都市社会学においてむしろ身近なテーマであったといえます。そこで、今回のテーマ部会では、先行研究の蓄積をふまえつつ、都市社会学における

フードスタディズの新たな可能性を追究したいと考えています。

続いて、ラウンドテーブルのテーマは、「今、あらためてエスニシティ研究と都市を考えるーオールドカマー研究とニューカマー研究の接続を模索してー」です。本学会の大会では、2007年に山口大学で開催された第25回大会のテーマ部会以来、実に17年ぶりにエスニシティがテーマとなります。グローバル化がますます進展する昨今の状況を背景に、オールドカマー外国人とニューカマー外国人に関する研究をいかに接続することができるかについて、活発な議論が展開されることを期待しています。昨年と同様に、今回のラウンドテーブルでも、話題提供者を募集いたします。ぜひふるってご応募ください。

ようやく、本格的な対面での学会大会が復活します。今回も有意義な学会大会となりますよう、みなさまのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

(企画委員会委員長 二階堂裕子)

[ラウンドテーブル] 今、あらためてエスニシティ研究と都市を考えるーオールドカマー研究とニューカマー研究の接続を模索してー

【趣旨】

本学会では2017年度の第35回大会より、会員、特に若手会員の研究交流と多様な論点を創発的に生み出すことを目的として「ラウンドテーブル」を企画してきました。

今大会では「今、あらためてエスニシティ研究と都市を考えるーオールドカマー研究とニューカマー研究の接続を模索してー」(詳細は下記参照)をテーマに、開催することになりました。論点提示のため、テーマに関して5分程度の「話題提供」をしていただける会員を募集します。レジュメや報告資料の準備は基本的に不要ですが、必要に応じてパワーポイント、紙媒体の資料等を提示していただいても結構です。特に若手研究者の方に話題を提供していただき、世代を超えて格式張らず活発な意見・情報交換を行いたいと思います。

なお、自由報告部会に登壇予定の方も話題提供者になれます。ただし、自由報告部会報告と同じ内容やトピックのエントリーはお控えください。話題提供者には大会終了後、その内容を600~800字程度にまとめていただき、それを大会報告号のニュースレター(例年11月に発行)に掲載する予定です。

・応募方法：2024年6月3日(月)18時必着。「自由報告」と同じ要領で、日本都市社会学会第42回大会報告申し込みフォームからお申し込みください。

【テーマ】今、あらためてエスニシティ研究と都市を考えるーオールドカマー研究とニューカマー研究の接続を模索してー(大会1日目 9月4日)

エスニシティ研究は都市研究の中でも重要なテーマであり続けてきた。特に1980年代後半以降、著しく増加したニューカマーと都市および地域社会との関係は都市社会学会でも何度か取り上げられ、議論が行われてきた。

しかしながら、これまでのエスニシティ研究は、ややもすると、エスニシティや在留資格別に研究調査が行われてきたように思う。戦後の在日朝鮮人政策は、その後の日本の外国人政策にも適用され、そのことが、現在の移民をめぐる研究が提起する数多くの課題にもつながっている。にもかかわらず、都市社会学においても、ニューカマー研究内での接続もさることながら、在日朝鮮人を中心とするオールドカマーに関する研究との接続もほとんど議論されることがなく、今日まできているのではないだろうか。

このような問題意識を前提にして、このラウンドテーブルでは、オールドカマーとニューカマーの研究をつなぐ試みを考えてみたい。都市のローカルな空間における「共生」の実態を照射してきた研究が再考され、全国規模・地域横断的な移民研究が進められつつある中、都市とエスニシティの接続も新たな展開可能性を迎えているのではないだろうか。都市およびエスニシティ研究をめぐる様々な視角・フ

ィールドからの気付きを共有し、あらためてエスニシティ研究と都市を考える場としたい。

(企画担当委員 山本かほり・吉田舞・八木寛之・申恵媛)

[テーマ部会] 都市社会学とフードスタディズのクロスロード

【趣旨】

今大会のテーマ部会では、都市社会学の展望をフードスタディズとの接点から探索し共有してみたい。フード・デザートやフード・バンク、フード・スタンプやフード・ポリシー、フード・ビジネスやファスト・フード、フード・セキュリティやフード・レジーム……。 「フード」を冠するさまざまな現象や概念が近年、社会的に共有されるようになってきている。これらの現象や概念は、都市社会学にとって無縁でなく、むしろ積極的に焦点化されてきている。

もとより「食」あるいは「飲食」という営みは、都市社会学の出発点から意識されてきた。シカゴ学派を生んだシカゴという都市は米国の食料の集散地として歩み出した。シカゴ学派のモノグラフ自体さまざまな「食」をめぐるインタラクションからリアリティを与えられている。都市社会学にとって不可欠な市民的公共圏の概念も世界都市ロンドンのコーヒー・ハウスから着想された。食をめぐるマナーをその核心の1つとする文化資本概念も、さまざまな都市で営まれる歴史と日常、排除と包摂、あるいは政治と経済とを分析するのに用いられている。

そこで本テーマ部会では、「フード／食／飲食」を共通の関心として、これまでの蓄積を踏まえた都市社会学の新たな展望をみなさんと共有したい。「食べることと飲むこと/Mahlzeit」についてジンメルは、考えること、見ること、話すこと以上に私密的な営みであり、であるがゆえに共に食べることには特別な意味が見いだされ、「社会」なるものの力がわかりやすく感受されると述べていた。だからこそ「フード／食／飲食」からさまざまな社会学的想像力が喚起され、共通の議論の地平をかたちづくり得ると考えられる。そうした共通の議論から「都市」という場のありようや力の働き方が、あらためて共有されることを期待したい。逆に言えば、「都市」という視点を持つことで、今日盛んに言い交される「フード・X」という現象や概念に対し、忘れられがちだが見落とすことのできない論点を提示することも目指したい。

・本部会は大会1日目 [9月4日] に開催される。自由報告部会のような募集形式ではなく、テーマについての会員・非会員の多様な報告を受け、フロアとともに議論を深める形とする。

(企画担当委員 笹島秀晃・平井太郎・松宮朝・山本崇記)

[シンポジウム]都市社会学の境界を「不可視」から再審する

【趣旨】

1960年代以降、都市研究・都市社会学自体の射程、そして「都市(理論)とは何か」に関し、幾度も議論がなされてきた。その現代的な可能性を見定めるべく、2022年度テーマ部会「インターセクショナルリティから都市をとらえなおす」では、多様な因子——ジェンダー・セクシュアリティ、人種・エスニシティ、障がい、階層・階級など——が織りなす交差性を把握するための方法論的概念である「インターセクショナルリティ」をキーワードに、旧来の都市社会学の蓄積を再考した。

フロアとの議論から浮上したのは、都市をめぐる理論的射程において「不可視」化されてきた理論・対象の存在であった。その大枠を提示すれば、第一にそれは都市—社会の問題系において看過されてきたジェンダー・クィアスタディーズであり、第二に都市—自然関係を探求する上で見過ごされてきた「モノ」の存在である。

第一の観点について、都市社会学においてジェンダー的視点からの議論が希少であった側面は、2021年度のラウンドテーブル「ジェンダーから都市を問う」から一貫して指摘されてきたものである。理論であれ、フィールドであれ、主体としてであれ、都市と密接にむすびついているはずのジェンダー、そ

してクィアをめぐる議論は、都市社会学において半ば「見えない」ままになってきた。第二に、都市環境が激変するなかで、都市における生態系の変容や都市の内外を超えてグローバルに循環する資源を捉えることは、喫緊の課題となっている。現代都市の理論を彫琢する上で、都市を構成するモノ／自然という次元を決して見逃すことはできない。以上の二つの視点は、都市の境界自体が揺らぎつつある現代において、改めて「都市とは何か」を再考する契機を与えるものである。

本シンポジウムでは、「不可視」化されてきたこれらの理論・対象を、都市を主眼においた議論へと接続することで、現行の都市理論のアップデートを試みる。「都市社会学」というアイデンティティの経年変容を引き受けながらも、そのなかで周縁化されてきた対象や方法論と今一度向き合うことで——一方ではジェンダー・クィアスタディーズの視点から、もう一方ではマルチスピーシーズ民族誌や科学技術社会論(STS)の観点を通して——都市を問う術としての都市社会学の可能性を展望したい。

(担当企画委員：伊藤泰郎、仙波希望、中川雄大、仁井田典子)

自由報告の募集

第 42 回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7 月発行の「学会ニュース」(第 128 号)に自由報告要旨を掲載することになっております。自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。提出後の内容の修正は受け付けません。

第 42 回日本都市社会学学会大会 報告申込フォーム

※ラウンドテーブル・自由報告共通です。

申し込み方法：2024 年 6 月 3 日 (月) 18 時締め切り。メールアドレス、代表者氏名、報告者氏名および所属 (共同報告の場合は登壇者に○)、報告タイトル (仮題は不可)、報告要旨 (1,000 字以内。50 字×20 行)、発表時に使用する機器等を以下のフォームにご記入ください。

申し込み先：日本都市社会学学会第 42 回大会報告申込フォーム

<https://forms.gle/Ctw1TPEXwS2j74Ry5>

申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、くれぐれも余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

注意事項 (必ずお守りください！)

- ・共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。
- ・報告要旨は、「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください (学会ニュース 1 ページに 2 つの報告要旨を掲載する予定です)。したがって、要旨が 50 字×20 行に納まるか、予めご確認いただきますようお願いいたします。
- ・この要領に反し、本文が 1 行 50 字で 20 行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。

(事務局担当理事 三田泰雅)

コロナ禍にともなう院生会員・常勤職にない会員の学会費減額措置の終了について

2024年2月17日に開催された第2回理事会において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けた学会費の減額措置は、2023年度をもって終了することを決定いたしました。

(事務局担当理事 三田泰雅)

災害等による会費免除措置について

2024年2月17日に開催された第2回理事会において、政府により激甚災害に指定された災害で被災した日本都市社会学会会員に対し、申請のあった年度の年会費を全額免除することを取り決めました。申請が理事会で承認された後に適用となります。すでに納入済の場合は翌年度以降の年会費に充当いたします。2024年以降に発生した災害が対象となります。

対象：一般会員および学生会員

金額：一般会員 6,500 円・学生会員 4,000 円

期間：対象の災害毎に理事会で決定

申請方法：下記フォームに必要事項を記入して送信

<https://forms.gle/EyHxpzT5D5bxUJXZ8>



(事務局担当理事 三田泰雅)

将来構想基金による国際学会参加等支援の選考結果について

2024年度の将来構想基金による国際学会参加等支援の募集(2024年1月末申し込み締め切り)を行いましたが、応募がございませんでした。2025年度の将来構想基金による国際学会参加等支援の募集は11月発行のニュースに掲載予定です。

(事務局担当理事 三田泰雅)

理事会報告

2023-24年度第2回理事会が2024年2月17日(土)14時よりZoomにて開催されました。第42回大会の開催方法(開催校担当理事報告)、大会企画の準備状況(企画委員会報告)、年報42号の準備状況(編集委員会報告)、韓国地域社会学会への会員派遣について(国際交流委員会報告)等々について、各委員長・担当理事より報告がありました。また、能登半島地震などの災害で被災した会員に対する措置について審議が行われ、今後は激甚災害で被災された会員から申請があった場合に、年会費を免除することが決定されました。一方、コロナ禍にともなう減免措置については、導入時に比べて社会経済的な混乱が落ち着きつつあることから、2023年度をもって終了とすることになりました。その他、学会ニュースのコンテンツ、同127号の内容、入退会の承認について、それぞれ審議されました。

(事務局担当理事 三田泰雅)

編集委員会報告

- (1) 『日本都市社会学会年報』第 42 号の編集が進んでいます。特集は「大都市への移動を問い直す」を予定しています。
- (2) J-stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpasurban/-char/ja/>) で『日本都市社会学会年報』第 40 号 (2022 年発行) までが閲覧できます。学会 WEB サイトにもリンクが貼られていますので、ご利用ください。

(編集委員会委員長 川野英二)

『日本都市社会学会年報』第 43 号 自由投稿論文・研究ノートの募集

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』第 43 号 (2025 年 9 月発行予定) に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」「書評リプライ」の原稿を募集します。会員諸氏の、奮っての投稿をお待ちしています。投稿を希望される方は、本会ウェブページ (<https://urbansocio.sakura.ne.jp/paper.html>) に掲載されている投稿規定および執筆要項を遵守した原稿を作成のうえ、2024 年 11 月 30 日までに、原稿の word ファイルおよび PDF ファイルの 2 点を添付して、下記の編集委員会事務局および学会事務局宛にメール送信してください。投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

(送付先) ([at]を@に変えて送信してください)

日本都市社会学会編集委員会事務局

kawano[at]omu.ac.jp

日本都市社会学会事務局

usocio[at]urbansocio.sakura.ne.jp

(編集委員会委員長 川野英二)

国際交流委員会報告 (国際交流委員会)

韓国地域社会学会大会は、2024 年 5 月 17 日 (金)、ソウル大学にて行われます。今年度は、本学会から韓国地域社会学会へ報告者が参加する番です。今回大会での日韓共同セッションのテーマは、広義の「都市問題や都市の様々な集団が抱える問題についての研究」に関連するものです。本学会からは合同セッションの報告について 2 名を募集します。報告の詳細や応募方法・締切等は後日メールにて告知いたします。

(国際交流委員会委員長 妻木進吾)

社会学系コンソーシアム報告

2024 年 1 月 21 日 (日) に、Zoom にて社会学系コンソーシアムの第 16 回評議員会が、2024 年 3 月 9 日 (土) に、Zoom ウェビナーにて第 16 回シンポジウム「社会的孤立はなぜ問題なのか」がそれぞれ開催されました。評議員会 (31 学会・62 名の評議員で構成) では、2023 年度の事業報告・決算報告、2024 年度の事業計画・予算案に関する審議が行われ、いずれも異議なく承認されました。また、理事・監事の選挙が行われ、当学会からは浅川達人会長が理事長に、有末賢常任理事が理事に選出されました。

(社会学系コンソーシアム担当理事 三田泰雅)

会員異動（事務局）

新入会員（2024 年 2 月 17 日理事会において、2024 年 4 月 1 日付入会を承認）

<東日本地区>

浅川 賢司（地球環境戦略研究機関）

<中部・近畿地区>

LIU Haihui（名古屋大学大学院）

退 会（2024 年 2 月 17 日理事会承認）

<北海道地区>

橋本 雄一

<東日本地区>

大橋 純一 菱山 宏輔 山岸 紫

<中部・近畿地区>

平川 毅彦 前山 総一郎

<中国・四国・九州・海外地区>

濱西 栄司

（事務局担当理事 三田泰雅）

2023 年度 会費納入のお願い

学会費の振替用紙を同封させていただきました。2023 年度会費を納入していただきました会員の皆様、2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の会費もできるだけ早めの納入をお願い致します。オンライン入金もできます。ゆうちょダイレクトの QR コードをご活用ください。

ゆうちょダイレクトログイン：

<https://direct.jpbank.japanpost.jp/tp1web/U010101WAK.do?>



年会費は一般会員が 6,500 円、学生会員が 4,000 円となっております。激甚災害に指定された災害で被災した会員から申請があった場合は年会費を免除することとなりました。なお、コロナ禍にともなう院生会員・常勤職にない会員の学会費減額は 2023 年度で終了いたします。また、外国籍会員の場合、年会費減額の措置が適用される場合もあります。詳しくは、学会のホームページをご参照ください。

2023 年度までの学会費をまだ納入されていない会員の皆様は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入してくださいますよう重ねてお願い申し上げます。継続して 3 年以上会費を滞納した場合、原則として会員の資格を失うこととなりますので（学会規約 13 条）、その旨ご注意ください。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関（一部を除く）との相互振込が可能です。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名 ゆうちょ銀行
預金種類 ... 当座
金融機関コード ... 9900
口座番号 ... 0703976
店番 019
受取人名 ... ニホントシシャカイガツカイ
店名(カナ) 〇一九(ゼロイチキュウ店)

■ **ご所属先等変更のご連絡のお願い**

新年度より、ご所属先やご住所等が変更となる会員の皆様もおられるかと思えます。その場合は、事務局へメールにてご連絡くださいますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

■ **メールアドレス登録確認のお願い**

学会に登録しているメールアドレスを変更された方は、事務局までご連絡ください。

(事務局担当理事 三田泰雅)